

**製品名: PYK2 マウスモノクローナル抗体**

**カタログ番号: AMM80652**

研究使用のみ

## 概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	115.8kDa

## 抗原情報

遺伝子名	PYK2
別名	PKB; PTK; CAKB; FAK2; FRNK; PTK2B
遺伝子 ID	2185.0
SwissProt ID	Q14289
免疫原	大腸菌で発現した PYK2 (aa815-997) の精製された組み換え断片。

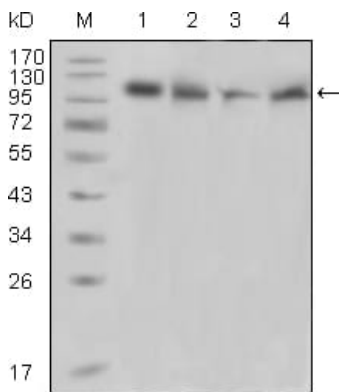
## 背景

PYK2: PTK2B タンパク質チロシンキナーゼ 2β。別名 PTK2B、PKB、PTK、CAKB、FAK2、FRNK。Entrez Protein NP\_004094。これは細胞質タンパク質チロシンキナーゼであり、カルシウム誘導性のイオンチャネル調節および MAP キナーゼシグナル伝達経路の活

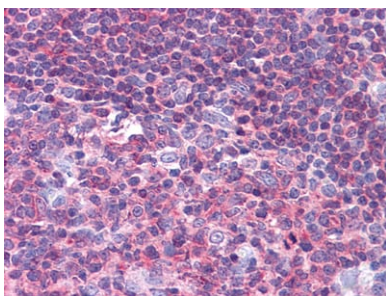
性化に関与しています。コードされているタンパク質は、カルシウム流入を増加させる神経ペプチド活性化受容体または神経伝達物質と、神経活動を制御する下流シグナルとの間の重要なシグナル伝達中間体である可能性があります。コードされているタンパク質は、細胞内カルシウム濃度の上昇、ニコチン性アセチルコリン受容体の活性化、膜脱分極、またはタンパク質キナーゼ C の活性化に応答して、迅速なチロシンリン酸化および活性化を受けます。このタンパク質は、CRK 関連基質、ネフロシスチン、FAK 関連 GTPase 調節因子、および GRB2 の SH2 ドメインに結合することが示されています。コードされるタンパク質はタンパク質チロシンキナーゼの FAK サブファミリーに属しますが、他のサブファミリーのキナーゼとの顕著な配列相同性は見られません。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする4つの転写バリエーションが見つっています。

## 研究分野

## 画像データ



Raji (1)、PMA 誘導 THP-1 (2)、Jurkat (3)、および Ramos (4) 細胞溶解物に対する PYK2 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



PYK2 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。